

自己評価チェックシート

このチェックシートは、日ごろ保育に関わっている者が、自分の保育を確認し、気づき、問い直すきっかけを作るものです。

評価の判断基準は自分です。判断に迷ったときには、なぜ迷ったのか考察してみてください。

「ほとんどできていない。」の数がかなり占めたとしてもこのことが保育士の保育を否定するものではありません。

自分の保育を客観的に見て改善すること、職員の共通理解を得ることが目的です。

<評価について>

評価するにあたっては、以下のような基準で行います。

A:かなりできている

B:ほぼできている

C:あまりできていない

D:ほとんどできていない

	設問	A	B	C	D	非該当
	【保育理念】					
	園の保育理念や保育方針を理解している。	2	2			
	園児の最善の利益を考慮し、最もふさわしい生活の場となるよう努力している。	1	3			
	保育士の専門性を活かし、子どもの状況を踏まえて養護と教育を一体的に行っている。	1	2	1		
	保育士の専門的知識、技術及び判断をもって保育し、保護者にも保育の指導や支援を行っている。	1	1	2		
	日頃から保護者とのコミュニケーションを密にして、質問や相談などには保育の専門性を十分に発揮して説明するように留意している。	1	2	1		
	【子どもの発達】					
	子どもの発達過程を理解し、一人一人の発達に合わせて援助していくことの重要性を理解している。	3	1			
	乳幼児期は身体的発達や生活環境の違いにより、一人一人の心身の発達差が大きいことを理解している。	4				
	家庭環境、身体的発達、精神的成長などにより生じる、一人一人の違いを理解している。	3	1			
	要求や思いを十分に表現できない子どもの気持ちをくみ取るようにしている。	1	3			
	日々の保育の中で、子どもが安心感と自己肯定感を持てるような言葉かけや配慮を行っている。		4			
	【保育の内容】					
	一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	1	2	1		
	健康的な生活リズムを身につけるよう、家庭と連携に努めている。		3	1		

日々の活動の中で、食事の前や排せつ後の手洗いを励行するなど、清潔の習慣が身につくような保育を行っている。	2	2		
生活に必要な習慣が身につくよう家庭との連携に努めている。	1	2	1	
自分のことは自分でしようとする意欲を持てるよう励ましたり、見守ったり、その後、達成感を味わえるように配慮している。	1	3		
友だちと積極的に関りながら遊び、喜びや悲しみを共感する機会を大切にしている。	4			
良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるような援助、配慮を行っている。	1	3		
地域の人々などに親しみを持つような機会を保育に取り入れている。		1	3	
子どもが自然を観察したり触れたりする中で、その楽しさ大きさや不思議さのなどに気づくような援助を行っている。		4		
自然や身近な事象に関心を持つことが出来るように環境を工夫している。		2	2	
数量や図形などに関心を持つように、生活の中で数を数えたり、形を意識したりするなど工夫して保育を行っている。	1	3		
子どもの発達や理解力、生活経験に合わせた言葉で保育を行っている。	1	3		
子どもが自分の話を十分に聞いてもらった、伝わったという満足感や楽しさを持てるよう配慮している。	2	2		
子どもが思いを伝えたいような環境作りを大切にしている。	1	2	1	
「貸して」「いいよ」など、生活の中で必要な言葉を知らせ、それを理解し使うことが出来るように援助、配慮を行っている。	3	1		
紙芝居や絵本などを通して、物語の楽しさや言葉の面白さに気づくよう心掛けている。	2	2		
日々の保育の中で感動や発見が出来るよう、保育内容に変化を持たせている。		3	1	
さまざまな素材に親しみ、工夫して創作活動を楽しめるように環境を設定している。		2	2	
音楽を聴いたり、歌を歌ったりして音楽に親しみを持ち、楽しめるような機会を作っている。	2	2		
音楽や歌に合わせて身体を動かしたり、踊ったりして、表現することの楽しさに気づくような機会を作っている。	2	2		
自分のイメージを言葉や体の動きなどで表現したり、演じて遊んだりして楽しめる機会を作っている。	1	2	1	
【保育の計画及び評価】				
保育過程に基づいた具体的な指導計画を作成できる。	1	1	1	1
各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った計画を作成している。	1	2		1
指導計画には活動の展開に合わせて、援助の仕方が具体的に盛り込まれている。	1		1	1
一人一人の発達や生活経験などを考慮して個人別指導案を作成している。	2	1		1
一人一人の発達や生活経験、生活における課題などを職員間で共通理解を持ち話し合っ計画の立案を行っている。	2	1		1

自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを理解している。	2	2		
【健康及び安全】				
保育園は子ども一人一人と集団全体の健康及び安全の確保に努めなければならないことを理解している。	4			
子どもの感染症やその他の疾病についての知識を持ち、必要な援助が出来る。		2	2	
感染症が発生した時には発生状況や予防対策などを全保護者に伝えている。	1	1	1	1
疾患のある子どもに対して、嘱託医やかかりつけ医及び保護者からの指示に基づいて対応している。	1	3		
子どもの体調が悪くなった時に、保護者はじめ嘱託医やかかりつけ医と連絡を取るよう心掛けている。	1	2	1	
子どもが活動しやすいように、その都度、保育室の換気や温度・湿度に配慮している。	2	2		
園生活での活動・発達の状況や家庭での十分な睡眠や健康的な生活リズムを身につけるよう、保護者との連携に努めている。		2	1	
子どものアレルギーに関して、入園時に保護者から十分な聞き取りを行い、全職員が把握できるようにしている。				
施設の安全を保てるように定期的に点検している。			4	
園内や玩具等を清潔に保てるよう、継続的に掃除や消毒を行い管理している。	1	2		
【保護者支援】				
子育ての悩みを安心して話せるように、送迎の際、保護者と言葉を交わしたり、連絡帳で情報を交換するなどしている。	2	2		
保護者の思いに寄り添い、相談・依頼に適切に対応できている。	1	3		
保護者の気持ちを思いやり、気持ちに沿った言葉がけが出来る。	1	2	1	
保護者からの伝達事項がある時にはメモをするなどし、全職員へ確実に伝えるようにしている。	1	3		
保護者への説明は素早く、分かりやすく、効果的に説明し、理解・納得を得られたか確認するように心掛けている。	1	1	1	
職員会議などで各クラスの状況報告をし、担当クラス外の様子も把握している。	1	1	2	
保護者、入所児童、また職場に関しての秘密保持を厳守している。	3	1		
【職員の資質向上】				
保護者、来客に対して季節・時間に合わせた好感の持てる挨拶ができる。	1	3		
正しい言葉遣いができる。	1	1	2	
電話の要件は、間違いがないようメモに残し、確認や伝達を行っている。		2	2	
いつも笑顔で対応できる。	3		1	
周囲の人や来客に清潔感を与える対応や身だしなみを実践している。	1	3		
髪や爪など、不衛生や危険のないよう日頃から気をつけている。	2	1	1	
勤務に支障をきたさないように、日頃から規則正しい生活を心がけ、体調不良のときは速やかに受診するなど体調管理に努めている。	1	3		

自ら進んで勤務を完全遂行する、積極的な姿勢がある。	1	2	1	
担当業務以外でも、自ら気づき、声をかけ合い協力している。	1	1	2	
会議等で積極的に発言できる。	1	2	1	
考えたこと、思いついたことを同僚や上司に相談できる。	1	2	1	
自分の施設の長所、短所を正しく理解し改善できる。	1	1	2	
人間としての資質を磨くように努力する意欲を持っている。	1	2	1	
苦手な分野の情報や研修を知ろうとする意欲がある。	1	2	1	
保育行政や他の施設の保育内容に関心がある。	2	2		
保育に関する情報を、書籍やインターネットなどで取り入れるように努めている。	1	2	1	
研修報告などで気づいたことを自分の業務に反映できる。	1	3		
他人の意見に耳を傾け「聴く」ことが出来る。	1	3		
相手がどのような思いで意見を発し、行動を取ったか考えることが出来る。		4		
様々な職業の保護者の立場を理解し、一律に保護者の非難をしない。				

総評

令和3年度はまだ新型コロナウイルス感染症が猛威を振っていたこともあり、地域との関わりを持つ保育活動はあまり行うことが出来なかった。感染状況を判断しながら、地域や社会とのつながりが持てるような保育活動をしていきたい。

また、保育士自身の保育の専門性にかかわる部分の回答については、他職員からの評価が高い職員も、自信の無さが伺われる回答をしており、研修等を通して、全職員が自信を持って保育や保護者支援に当たることが出来るようにしていきたい。